



市政研究会 市川 哲夫 議員

- 1 鈴鹿市のご当地グルメについて
- 2 鈴鹿市の緑について
- 3 清掃センターの焼却灰について

質問1 米どころである本市の食料自給率を上げるには、米粉の活用が重要であるが、米粉用米の取り組みの現状はどうか。地元産品を活かしたご当地グルメづくりに対する市の取り組み状況はどうか。

答弁1 本市産業の振興と活性化を図るために、米を始めとする一次産品の生産、加工、流通販売が促進されるよう、民間が行う地元食材を活用したご当地グルメの創出、普及活動に対し、関係団体と連携し支援を行いたい。

質問2 かつての里山が竹林になってしまっているな

ど荒れた里山が多い。里山保全に関する市の基本的な考え方や対応はどうか。

答弁2 植生をはじめとする自然環境の把握に努め里山の保全に関する啓発事業を実施している。今後は、NPOや市民団体と連携、協働し、里山の保全に関する事業を進めたい。

質問3 契約事務等の現在の進捗状況は。

答弁3 焼却灰の処理見込みは、主灰が年間2,900t、準飛灰が年間3,100t、混合灰が年間1,500t程度を予定。主灰は津久見市へ、準飛灰は大牟田市へ、混合灰は伊賀市で運搬処理するが、処理費と運搬費を含めた契約額はそれぞれトン当たり、36,750円、47,775円、30,450円である。ただし、混合灰はトン当たり1,000円の環境保全負担金が別途必要である。



公明党 伊藤 寿一 議員

- 1 市営住宅について
- 2 不法投棄防止対策について
- 3 教育関係について
- 4 スポーツ振興について

質問1 ①市営住宅の戸数は適正か。②高齢者対策は。③団地管理や団地運営についての考え方は。

答弁1 ①老朽化の市営住宅は取壊し、新たな建設は行わず修繕等を実施。②改修や民間施設の誘致を検討。③管理は市直営が望ましいが、一部の業務は委託。運営は自治会と連携。

質問2 ①不法投棄の現状やパトロール車の成果は。②監視カメラの現状と効果、今後の取組みは。

答弁2 ①平成15年以降減少しているが、家電リサイ

クル法対象品が投棄されている。パトロールには早期発見と抑止効果がある。②不法投棄頻発箇所に23台設置し、効果が期待できる箇所に変更して設置。

質問3 ①薬物乱用防止対策は。②子ども議会の定例化は。③中学校のトイレ改修の現状は。④石薬師小学校の体育館の建設はいつか。

答弁3 ①道徳や特別活動などの時間を活用し指導。②意義深いものと考えており継続していきたい。③校舎の大規模改修工事を行う中、順次対応。④建物の老朽化度合いを勘案し、建替え時期を検討。

質問4 ①当市開催のスポーツ大会の後方支援は。②グラウンドゴルフ場等の整備の助成について。

答弁4 ①厳しい財政状況だが、状況に応じて支援。②助成は考えていないがスポーツ環境の整備は検討。



市政研究会 中村 浩 議員

- 1 北長太川の整備についてパート4

質問1 北長太川の樋門は平成18年1月10日から供用を開始したが、その後すぐにマイターゲートの脱落等で運転を取りやめ5年が経過している。設置費や修理費等に要した経費をあわせると総額5億2,700万円費やしているが現在も使用が不可能である。今後の対応はどうか。

答弁1 前回12月定例会で答弁したとおり、現在、支障となっている樋門の開閉時に発生する衝撃音を低減させるため、衝撃音そのものの発生を抑制する方法、

樋門の開閉頻度を低減させる方法等さまざまな方法について、安全性を確保することを前提として、今年度中に改善方法を決定するため、(財)三重県建設技術センター、施工業者等とともに、検討・協議している。その中には効果の確実性、経済性、実施期間等を考慮し、現在の金属製止圧板と水密ゴムを、特殊ゴム製に変更、改良する工法が最も適当であると考えている。衝撃音対策については、当面、新設樋門3門の内1門について施工することとし、経費の節減も図りたい。残る2門については、改善対策の効果を検証したうえで、メンテナンスの時期に併せて対応する。



北長太川の樋門